

志望理由書作成のヒント

1. 志望理由書の型(例)

① **「将来の目標(夢)」**— “私は〇〇になりたい”、“私は〇〇な目標をもっている” など
 ☞より具体的に述べる。(=ここが曖昧になると、この後の文章も曖昧になり、志望理由が弱くなる)

↓

② **「①を志す理由」**— “私は××という経験をしたことから、〇〇の分野において、△△という課題を見つけた。” など
 ☞自分の経験(体験)などのきっかけやその分野に対する課題の解決方法などを明確に述べる。
 ※自分の推測や今もっている知識だけでは、採点者を納得させられる内容を書くことは出来ない。
 (=調べるなどして、希望系統の研究が必要)

↓

③ **「目標達成のために必要なこと」**(=①・②で述べたことを実現させるために必要なこと)
 ☞①・②を達成するために必要なこと(≒自分に足りないこと≒学びや資格、経験)

↓

④ **「志望校で自分がすること、出来ること、(=志願理由)」**
 ☞授業内容、制度、資格取得、ゼミ、研究室、教授などより具体的に記す。

2. 志望理由書を作成するためのポイント

最重要事項

●絶対に外せないポイントはコレ！まずはここを意識しよう。

自分の将来の夢(目標)に、「社会貢献」の観点が入っているか。(どうやって社会の役に立つか)

—あなたの夢は、その職業に就くことではなく、職業に就いて社会的責任を果たすこと！
 (=社会からの欲求を満たすこと) ※社会の役に立たない仕事はありません。

× 私は将来 CA になりたい。理由は、外国の方とたくさん英語が話せ、色々な国に行けるから。

☞ポイント：自分のしたいこと = not 個人のやりたいこと but 世の中で必要されること

自己の経験、体験が単なる思い出話や苦勞話、自慢話になっていないか。

—あくまで、経験談や体験談は、自分の主張を強める材料です！経験談や体験談がすごいから、他に秀でているから大学側があなたを合格させるわけではありません。(ただし、スポ推は除く)

(大学志望者は必須項目)

☞ポイント：「※アドミッションポリシー」を意識する。 ※「どのような学生を受け入れたいか」という大学側の方針

自分の将来像、長所などのトータルの「自分像」が、大学側が求める学生像に合っているか。

※将来像、大学での学びなどが明確でも、アドミッションポリシーと見合っていない場合は、一評価

出願する大学・学部を変えて読んでも、志願理由書の内容が通じてしまわないか。

—自分の志願理由書を読み、大学・学部を変えても通じるなあ。と思った場合、大学研究が不足している可能性があります。(=面接時に、質問によっては志望動機が弱くなる可能性があります。)

自分の将来の夢(目標)や、やりたいことが漠然とした憧れになっていないか。

- 漠然とした憧れでは弱い！(他のほとんどの受験生も、そのように考えるから)
- 特に皆が同じ希望の職に就くような、専門性の高い学部系統志望者は注意！
- ○○になりたいなあ～、なれたらいいなあ～…のような感覚で書くことは NG。

※夢を叶えたい理由には“ひとそれぞれ”その人が感じる理由があると思います。それをきちんと言語化します。

× 私は保育士になりたい。私は、昔から子どもが好きで、保育園のボランティアで保育士が子どもと接している姿を見て、毎日子どもに関わっている仕事に憧れを感じました。

📌 **ポイント：人と違うとらえ方が出来ているかが差別化をはかるということ**

自分しか書けない内容となっているか。

— 文中の主語を、隣にいる友達とチェンジしても内容が通じてしまうということは、具体性の欠けた文章であるということ。

※ただし、単なる妄想、あきらかに非現実的な内容は×。

※結論がクリエイティブ！は難しいかもしれない。結論は他の受験生と同じになっても、主張をサポートする理由や根拠、物事の捉え方にオリジナリティが見えれば強い理由書となります。

希望系統の関連書は必ず一冊は読んで志願理由書を作成する。

- その分野において、1つの考え方や価値観を知ることが出来る。
- その分野のオーソドックスな課題や問題点を知ることが出来る。
- その上で記入する理由書、面接での受け答えなどは、まとはずれな意見となりにくい。

参考文献を読む苦勞 < 今の知識だけで志願理由書を書く苦勞

(上級者編) 志願理由書に忍ばせておくと自分の PR となる2つの要素

- ① 「課題発見力」
 - 自分の興味のあること、自分の進もうとしている分野の問題点や課題を指摘する。
- ② 「主体性」
 - 指摘した問題や課題が生じている原因や理由に触れ、仮説ながらも解決策を提案する。
(ただし、評論家のような、あまりに客観化した文章は△)

3. 書き終わりチェック (実際に志願理由書を作成した後に以下の項目を確認しよう)

- 文章の量は適切か。 → 余白が目立つのは論外です。
- 文章末尾が「です・ます」調に統一されていますか。 → です・ます調に修正しよう！
- 一文が長くなり過ぎている箇所はありませんか。 → 接続語を使って2つの文に直そう！
- 話し言葉が使われていないか。
 - × 「～.なので…」、「～だったけど、」、「～だったり」、「でも、～」、「あと、～」、「～みたいに」

4. (参考) 本校の卒業生が作成した実際の志願理由書 (エントリーシート)

実際に、皆さんの先輩が書いた志願理由書を読んで、志願理由書のインパクトや印象、そこから想起される人物像などを感じてみましょう。自分が作成した志願理由書との比較もできると思います。どちらが良い、悪いという参考例ではなく、表現や内容が与える印象も含めて、皆さんの先輩が書いたものとして参考にしてみてください。

●下に紹介するエントリーシート(A)は、本校の卒業生(総合進学コース所属)が実際に作成した志願理由書です。作成時期は、3年生の2学期です。この生徒は、国際文化理容美容専門学校を公募推薦入試で受験しました。結果は不合格でした。しかし、その後の一般入学試験にて合格しました。今は夢を叶えて、美容師として活躍しています。

(志願理由書 A)

課題：私が考える理美容専門学校で過ごす2年間

私には、今までお世話になった人を笑顔にしたいという夢があります。その夢を私は、美容師という形で叶えようと思いました。そのために普段の授業からしっかりと取り組み、日々成長した自分を感じながら技術を身につけたいと思います。また、放課後の課外授業にも必ず参加し、自分を成長させていきたいです。美容師になるための国家試験には必ず合格し、様々な資格取得にも挑戦します。校内コンテストなどでも結果を残せるように取り組みたいです。また、夢を必ず叶えられるように、就職活動においても早く行動し、将来を最優先に考えながら、日々生活しようと思います。自分が将来、夢を叶えて輝いている姿をイメージしながら、自分に自信をもって過ごす2年間にしたいです。そして私は美容師になり、人を笑顔にするという夢を叶え続けていきます。

●下に紹介する志願理由書(B)は、本校の卒業生(総合進学コース所属)が実際に作成した志願理由書です。作成時期は3年生の1学期です。この生徒は、白梅学園大学を公募推薦入試で受験をし、合格しました。(下の志願理由書に若干修正を加えて出願しました。)そして、今は夢を叶えて、小学校の先生として実際の現場で活躍しています。

(志願理由書 B)

○本学ならびに本学科を志望した理由

私は、特別支援学校の教員になりたいので白梅学園大学発達臨床学科を志望しました。幼い頃は幼稚園教諭か保育士をめざしていましたが、高校一年生の時、私の弟に障害があることがわかり、「障害」について興味を持ち始めました。そして、弟が特別支援学級に転入し、学校見学に行った際、そこでの先生方の生徒への目配り、気配りに感動し、私もここで働きたいと強く思いました。また、ボランティア活動を通して様々な特性を持つ子どもと接し、障害のある子どもと触れ合う楽しさや、接し方の難しさを知ったのも、特別支援学校の教員を目指すきっかけの一つです。私はこの職に就いて障害のある子どもが自立できる教育をして、その家族も理解・支援できる教員になりたいです。そのためには、教員側には豊富な「知識」と「経験」が必要であり、それを生かした一人ひとりのニーズにあった教育が必要だと考えます。私は、貴校に入り、心理学や障害について深く学び、より専門的な「知識」を身につけます。そして、そこで得た「知識」を生かし、実習では多くの「経験」を積んでいきます。さらに、大学での授業や実習のみならず積極的に外部でのボランティア活動に参加をし、白梅子育て広場では様々な人と触れ合える機会があると思うので、それも活用し、夢に近づきたいと思っています。学科説明会で、佐久間准教授が「子供から家族までを支援できる人材を育てる」という話をされた時に、貴校でしか私の夢を実現させることが出来ないと思いました。以上の理由より、私は白梅学園大学の発達臨床学科を志望します。

◎ラフ（志望理由書の設計図）を書いてみよう！

👉 志望理由書作成のヒントの「1」で説明上の型にあてはめて、各項目の要素となるものを書き出して、文が一本の線でつながっているかを確認しよう。

大きなイメージ:「将来①になって、②をやりたい私には③が必要であり、③を学べる貴校に入学し、④をする。」

(=夢を叶えるためには、(他校ではなく、)貴校での学びが絶対に必要である)

①	
②	
③	
④	

5. 志望理由書の作成（別紙ワークシートに作成）

2年生で行ってきた、HR活動、キャリア活動(分野別模擬面接、進路探究レポート、冬休みの課題など)を生かして(別紙)の「志望理由書」を実際を書いてみましょう。まずは、前項のポイントを確認して、ラフを作成してから、文章化しましょう。ラフを作成せず、その場で思いついたことを書いた志望理由書は、論旨が一貫せず、志望理由が整理されていないという印象を与えてしまいます。つまり、その時点で、合格答案とはなりません。

志望校 :

※大学志望者は学部学科も記入

○大学志望者は、志望校のアドミッションポリシーを簡単にまとめてみよう。

—志望理由書—

Blank area with horizontal dashed lines for writing the motivation letter.